

学 長 告 辞

2026年度入学式にあたり、青森市長 西 秀記様をはじめ、各位の御臨席を仰ぎ、入学式を挙行できますことは、私ども青森公立大学教職員一同にとりまして、この上ない慶びでございます。厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご家族の皆様、関係者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

本学は、地域の皆様の熱い想いによって、1993年に開学致しました。

開学以来、1997年には大学院修士課程の開設、2006年には、それまでの1学部1学科体制の見直しによる、1学部3学科体制への改組、2009年には教職課程の設置など、常に地域の皆様、学生諸君の期待に沿うべく、改革を進めて参りました。現在では、経営経済分野では、北東北、道南地域で唯一、博士号を授与できる大学となっています。

また、全ての大学に義務付けられている、7年に1度の第三者評価の結果が先日公表され、学生に対する学修・生活支援や、地域貢献・地域連携活動が高く評価されました。

さて、皆さんにとって、このような青森公立大学に進学した目的はなんでしょうか。

本学の教育目的は、「経営経済の専門性を持った教養人の育成」です。また「常に何故かを問い、学生に知的訓練を課す」ことを、教育の基本方針の1つに掲げています。

皆さんも、何故大学で学ぶのか、どういうことに挑戦したいのか、将来何者になりたいのか、などについて、考え続けてください。大学で学ぶ目的や将来の夢は、それぞれ違うと思いますが、変化の激しい現代社会を生き抜くためには、社会に関わり続けながら、大学4年間でしっかりと、必要な力を身につけることが大切です。

大学で学ぶ中で、生成 AI が答えを教えてくれるかもしれません。教えてくれないかもしれません。AI がもっともらしい答えを出した後で、皆さんがどう行動するかが大切です。常に何故かを問い続け、必要な力を身につけることが、大学生となった皆さんの、4年間のミッションです。

さて、大学正面のテラスに立つ、ブロンズ像は、フランス近代彫刻の三大巨匠の一人、アントワーヌ・ブールデルの晩年を飾る、代表的な傑作のひとつで、『自由へと旅する詩人』と名付けられています。

ポーランドの愛国詩人である、アダム・ミキエヴィッチの、情感あふれる詩に感動したブールデルが、左手を空高く伸ばし、歩みだそうとする姿を、表現したといわれています。左手は『希望』、歩みだす姿は『自由』を象徴しています。皆さんも今一度じっくりご覧になってください。そして像の左手がどこを指しているのかを探究してください。

この像は、本学で学び研鑽を積む若者の、大いなる夢と希望を象徴するものです。新入生の皆さん、希望を持って、自由な社会を歩んでいけるよう、これから本学でしっかりと励んでください。

最後になりますが、皆さんにとって、青森公立大学での学生生活が、有意義なものとなるよう祈念し、2026年度入学式における学長告辞といたします。

2026年4月3日

青森公立大学 学長 神山 博